

私の
子ども
時代(7)



よく遊び、よく学び

鈴木 孝

私は大正十二年(一九二三)東京生まれ。小学

校三年生の時から現在まで、文京区大塚窪町(今

の大塚三丁目)に住んでいます。お茶の水女子大

学のすぐ近くで、通った小学校は、東京市立窪町

尋常小学校、お茶大の正門のななめ向かいに今も

ある、文京区立窪町小学校です。このあたりには

幼稚園は、護国寺の音羽幼稚園だけしかありません

んでしたね。

小学校入学前(昭和四、五年頃)は、よく母の

実家のある千葉に行きました。母が体が弱く、暖

かく気候の良い房総の実家で、よく過ごしまし

た。初めに、千葉の田舎の話を少ししましょう。

母の実家は外房の茂原もばらという町で、駅から人力

車に乗って四〇分ぐらい行った、高根本郷村という所にあります。畑と田んぼの農業のかたわら、小学校の前で文房具と駄菓子屋をやっている兼業農家でした。千葉は西瓜の名産地で、畑には丸い西瓜や細長い西瓜、黄まっくわ（まくわ瓜の一種）が植えてあり、とてもおいしかったですね。トマトはダメでした。臭いが強くて、子ども向きではなかったから、塩や砂糖をつけたりして、無理に食べさせられましたよ。水田には水がはってあり、日本鯉とかドイツ鯉とか、鯉を飼っていて、雨が降らなくて田んぼの水が枯れてくると、それをつかまえて、大きな桶に移すんです。子どもにとって一番いやなのは、その鯉の肝を飲まされること。体にはとても良いのだけれど……。猪口に入った黒っぽいのを飲まされる。従兄たちは無理やり飲まされていたけれど、私はイヤで絶対に飲まなかった。

当時の村の人達は、皆、裸足はだしでしたね。子ども

も。うちのおじいさんも裸足で荷車を引いて、茂原まで学用品やお菓子を買いに行く。朝早く起きて、田舎の砂道を荷車引いてね。買ってきた物を店に並べていましたよ。学用品の他、おせんべやキャラメルなどの駄菓子も。でも田舎の子は、現金を持っていないので売れないのです。特に、キャラメルなどは売れないとカサカサになってしまふ。そのカサカサがおいしくて、店番しながら食べてよくおこられました。

昔のお百姓は、穀物や野菜を上手に合理的に作っていました。田んぼの畔道に枝豆を植えたりして。私は何も知らないもので、その枝豆をかたっぱしから取って、子ども心に「おもしろい、おもしろい」とよその家のまでみんな取ってしまつて……。おこられましたね。子どもだから、お百姓さんが目的を持って植えているなんて、全然考えなくて、「あっ豆だ」なんて取つたんですよ。

ちよつと雨が降ると田んぼの水があふれて、小川に鯉や鮒が流されてくるわけ。それを採るのがまた楽しい。「ぜい」という竹で編んだ筒を、川に塞さきを作つてそこに沈めておく。しばらくすると、大きな鮒がかかっている。その時の喜びはもううれしくて…。どの家も田んぼに鯉や鮒を飼つていました。魚が雑草を食べてくれるというのと、食糧にしたのでしょう。商売にするのではなく、自分たちの貴重な栄養源として飼つたのです。ニワトリや七面鳥も飼っていましたね。七面

鳥はずい分早くから飼われていたようです。おこらせると顔をまっ赤にしてワーツとなるので、それがおもしろくておこらせたりして…。何十羽もいたわけじゃないけど、七面鳥はおもしろかったですよ。

行事では七夕が変わっていた。七夕の時は、朝早くワラで馬を作るんです。それはおじさんが作ってくれる。その馬を車のついた板に乗せて、

引っぱって鎮守様に行く。かけ声をかけて歌いながら行くんです。鎮守様のまわりを何回か回って家に戻り、今度は草を刈ってきて台車の上の馬の前に盛り、あんころ餅を作つてお供えをする。あんころ餅はお相伴おきょうばんできるので、これがまた楽しみ。これが上総地方の七夕です。

あの辺は日蓮宗が盛んで、「お題目だいご」というのがある。お題目というのは「南無妙法蓮華経…」となえるあれですよ。そのお題目を集まるとなえる行事があつて、それを「お題目」といつていたのでしょうか。何しろ五々六歳の頃の記憶だからよくわからないのですが…。そういう時にはごちそうがでる。これは、日本中でもめずらしいと思うのですが、いわゆる「巻き寿し」です。切り口が模様になっていて、太くて、とてもきれいなみごとなお寿しですよ。三本も四本も作る。それを作る人がみな名人。私の母も、近所のおばさんも。卵や干瓢、でんぶ…いろんなものを入れて、

何本も小さいのり巻を作り、それをまた大きいので巻いて、だ円形に太くしていく。それを切るときれいな模様がでてくる。どこのお宅もみな名人で、とてもおいしい。お題目の時にはそれが食べられるのが、とても楽しみでした。

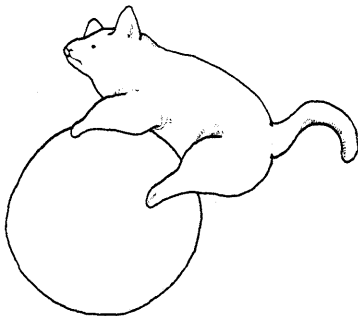
好きな遊びはカニ採り。田舎には、小さいカニがたくさんいるんです。バケツ一杯採って、東京に持って帰り、よく井戸の所でカニ遊びをしました。たよ。東京にはカニやさんが売りにきたんです。そのぐらいカニは子どもものペットというかおもちゃでした。カエルを飼うよりカニの方がおもしろかったですよ。

そんなことで田舎にも友達ができて、よく遊びました。夏には必ず行っていましたから。

東京の話にもどりましょう。

すぐ近くの東京女子高等師範学校（お茶大）は、ちょうど建てている時でした。あそこは軍の

弾薬庫だった所です。私達は工事用のトロッコに乗って遊んだり、コンクリートをうつパタ板という板で小屋を作ったり、枯れ草に火をつけて遊んだりしたこともありました。もちろん工事の人におこられました。女高師は外壁がレンガ貼りの三



階建て。そこから道のこちら側は何もなく、トロッコに乗ったり、戦争ごっこをしたり毎日でした。

他にもオニゴッコやかくれんぼなどの集団的な遊びが多く、軍艦遊びは特におもしろかったね。

いわゆる“水雷艦長”という遊び。帽子のつばを前にかぶると艦長、横ちよにかぶると駆逐艦、後ろにかぶると水雷。艦長は駆逐艦に勝ち、駆逐艦は水雷をやっつける。そして水雷は艦長をつかまえることができる。電信柱を陣地にしてよくやりました。

昭和の初めは野球がはまりました。六大学の野球が人気で、ラジオ店の前には人がたくさん集まりました。ちょうど、戦後、力道山のプロレスを見に街頭テレビに集まったように。それで、子ども達は野球に熱中しましたよ。昭和の五、六年頃は不景気で、失業時代でしたから、大学生も就職できずにぶらぶらしていた時代でした。そのお兄

さん達が野球の監督になってくれて……。ユニフォームを作って、ラシャでチーム名の型をとってつけたんですよ。私達は“すみれ”というチーム名で、それを着て、大塚公園でよく試合をしました。

祭りも楽しかった。この辺は吹上神社や天祖神社の氏子です。祭りの仕度は運動足袋をはき、武者絵の描いてある万燈まんちという長い棒のついた燈籠、鈴のたすきに花笠をかぶり、錫杖しゃくじょうという鉄の輪のついた杖を持った。私の町会には神輿みこしがなく、山車だしだけだったので、子ども心にとっても肩身の狭い思いがしましたね。まわりは拓殖大学や東京高等師範の学生の下宿屋さんが多く、子どもが少ない地域でしたから。祭りに参加すると町会からそは券と入浴券がもらえて、それを持って子ども同士みんな、おそは屋に行って食べるのも楽しかったね。子どもはいつも集団で行動していました。

少年団ごっこも楽しかった。当時、講談社からでていた『村の少年団』という佐々木邦の作品があつて、それがおもしろくて、自分達で旗を作り、少年団ごっこをしました。四kmぐらい遠くはなれた「板橋のガスタンク」まで行つて、その土手で少年団ごっこをした記憶があります。おむすびを作つてもらつてね。子どもは火を燃やすのが好きで、あんな広い所で火なんかいくら燃やしても平気なもので、おこられるけど、おもしろいからよくやりました。今じゃ考えられないけれどね。他にも『少年倶楽部』や『少女倶楽部』など、子ども向けの本がたくさんあり、佐藤紅緑とか高垣陣ひだまりとか、子どもの血をワクワクさせるような本がたくさんありました。講談社は野間清治という人が初代の社長でしたね。本からはいろいろな刺激をうけました。

ベーゴマも熱中しました。ベーゴマは、買ってきたのをただ使うのではなく、まず土の中に埋め

て腐らせる。そして金剛砂こんごうしゃで角かどを作つたり、下をとがせたりする。金剛砂は自転車屋さんのグラインダーを借りる。「おじさん、やつて」って頼むんです。遊ぶ時はバケツと床とこがいる。私はゴザでできた夏座ぶとんを床にして、水をかけてやつた。友達が「鈴木君の所の床は一番イイ」と言つてくれましたよ。普通のゴザでは床が深くて回転が単純だからだめなんです。その夏座ぶとんを二つもつぶして、母におこられました。私の夏座ぶとんの床は浅いので、ベーゴマの強さがすぐにあらわれる。勝負が早くついて、よかつたね。でもおこられた。

ピストルや空気銃もよくやりました。『少年倶楽部』の通信販売で買えるんです。空気銃は三円ぐらい。威力はないけれど、男の子はよく持っていましたね。私も買ってもらった。私の銃はともよくて、十円もした。デパートでいいのを買ってもらつたんです。イタズラばかりしていました

よ。ピストルもバンバン音がするのでおもしろくて好きでしたよ。それは今の子ども同じでしょ？

この当時は公民館というのがあって、その活動に参加する子どもたくさんいました。大塚公園に公民館があり、剣道、柔道などで体を鍛えました。町道場もたくさんあり、一番さかんなのは剣道。大寒に入ると寒稽古があり、四年生以上は学校が始まる時間まで、毎朝稽古をする。学校の体育館まで、鼻緒の太い高齒たがばの下駄をはいて、カラコロンとわざと音を響かせて歩くんです。剣道着に羽織をはおり、竹刀しなを持って、カラコロンと…。小学生も。高齒をはくと自分の背が高くなったような気がしてとても気持ちがいい。カッコよかったですよ。体育館には隅に大きな火鉢が一つあるだけ。そこで切り返しと練習試合をする。大寒に入ると毎朝、一週間ぐらい続ける。朝まだまっ暗な時に起きて、誰も通っていない道を通いました。

勉強の方もすっかりやりましたよ。小学校の時の知識は大きい。それだけ窪町小学校はよかったですね。校長は高等官、昔の中央官庁の課長級です。だから祝日の儀式には金モールの服を着てました。図工室には金工、木工の設備があり、ハンダごて、やすり、カンナ、作業台や万力、足踏みの糸のこも二〇台ぐらいありましたね。図画室、音楽室、作法室も立派でした。小学校なのに…。

理科では博物館と実験室があり、標本や剝製、人骨の模型、薬品棚、フラスコ、アルコールランプもあつた。地歴室では地形の起伏模型や歴史上の人物の肖像画がずらりとあり、今でもあの顔は誰だと思ひ出しますね。気象室や温室もありました。私は転校してきたもので、最初はびっくりしましたよ。通信簿も今のようにいろんな項目に細分化されていて、その上で甲乙丙をつける。窪町小は当時のモデルスクールで、欧米を見習って

作った、東京でも一、二番の設備の学校でしたよ。スチーム暖房もあり、いろいろお金をかけてやってくれた所でした。

学校の先生方は教え方が上手でいい先生ばかり、子ども達はみんな好きでしたね。小学校の先生なので全教科教えられるんだけど、図工や歴史、化学などは専科の先生でした。みんな好きでした。

あの頃でもすでに補習教育というのはありました。『視学』という監督役人がいて、その人が午後になると来る。そういう時は先生が慌ててみんなを帰宅させる。補習は受験勉強なのでしてはいけないことでしたので、先生も大変だったらしいです。今みたいに入試の競争もあって、日曜日は青山会館などで模擬テストを受けました。何番まではこの中学に入れる、というのがあったから。受験勉強は五年生から始めた。午後三時から五時半ぐらいまでと、朝の二回。神田の三省堂ま

で参考書を買に行った。全科や理科や国語など五冊ぐらい買ってよく勉強しましたよ。特に算数の初級・中級・上級と三段式の参考書は大好きでした。とても力だめしになるのです。中学校で教わる以上のことを窪町小学校で学びました。よく遊び、よく勉強し、どちらも楽しかった。そういう子ども時代でした。(談)

(東京都文京区在住)